

沿革

●当財団(事業団)の動き ○市など財団以外の動き

1987年 (昭和62年)	4月	○川崎市教育委員会社会教育部に(仮称)川崎市生涯教育振興事業団設立準備事務検討委員会が設置される。
1988年 (昭和63年)	4月	○(仮称)川崎市生涯教育振興事業団から(仮称)川崎市生涯学習振興事業団に名称が改められる。
1989年 (平成元年)	6月	○事業団設立構想を川崎市の政策調整会議に付議する。
1990年 (平成2年)	2月	○出捐金2億円、運営補助金約1億円とする、事業団設立に係る平成2年度予算案が市議会に提案され、可決成立する。
	4月	●神奈川県教育委員会に財団法人の設立許可申請を行う。
	5月	●神奈川県教育委員会から「(財)川崎市生涯学習振興事業団」設立許可を受ける(事務室を教育文化会館に置く)。(平成2年5月22日)
	6月	●社会教育関係団体、市民団体、区民懇話会委員等を対象に「生涯学習フォーラム」を開催する。
	7月	○岩手県東和町で(財)川崎教職員会館、川崎市教職員組合が「ふれあいサマーキャンプ」を実施する。
	8月	●各区で「市民と語るつどい」を開催し、財団設立についての理解を求める。
	9月	●第1回理事会を開催し、高橋清市長が初代理事長となり、生涯学習情報の収集・提供事業を開始する。
	11月	●生涯学習情報誌「Stage Up」第1号を創刊する。
1991年 (平成3年)	1月	●新百合21ビル内に多目的ホールならびに会議室を設置し、本部事務室を同ビル内に整備する。市民学習講座を開設する。
	2月	○川崎市民の学習意識調査研究委員会による、「ゆたかな学習社会の構築をめざして－1」(川崎市民の学習意識調査報告書)が発刊される。
	6月	●資格取得支援講座、パソコン・ワープロ入門講座を開設する。
	10月	●市民企画講座を開設する。
1992年 (平成4年)	3月	○川崎市民の学習意識調査研究委員会による、「ゆたかな学習社会の構築をめざして－2」(川崎市民の生活と学習－中高年者の“学習的生活”に関する調査報告書)が発刊される。
	4月	●文化イベント事業(クラシックコンサート等)を市から受託し開始する。
	7月	●青少年地域間交流事業「ふれあいサマーキャンプ」(岩手県東和町、北海道中標津町)を(財)川崎教職員会館との共催で開始する。
	9月	●川崎市生涯学習情報システム「Stage Line かわさき」(市から運営受託)の稼動を開始する。 ●学校5日制に対応した事業「遊びの広場」を市から受託し、事業を開始する。
1993年 (平成5年)	3月	○川崎市民の学習意識調査研究委員会による、「ゆたかな学習社会の構築をめざして－3」(市民館利用者の学習実態に関する調査報告書)が発刊される。 ○市教育委員会による、「川崎市生涯学習推進基本計画」が発表される。
	4月	●事務局機構を整備し、室制(総務室、学習事業室、青少年活動事業室、スポーツ事業室)を施行する。学習事業室、青少年活動事業室を教育文化会館内に移す。 ●川崎市体育館、幸スポーツセンター、石川記念武道館、麻生スポーツ

	7月	センター、青少年の家、八ヶ岳少年自然の家、黒川青少年野外活動センター、青少年創作センターの管理運営を市から受託する。 ●(財)川崎教職員会館、(財)川崎市立学校教職員互助会とともに川崎市教育人材センターを設立する。 ●生涯学習情報誌「井戸端会議」を創刊する。 ●青少年地域間交流事業実行委員会が組織され、新たに宮崎県日向市等8市町村を加え、青少年地域間交流事業「ふれあいサマーキャンプ」を全3コースで実施する。
	8月	●青少年地域間交流実行委員会が、長野県富士見町での「ふれあいサマーキャンプ」を市教育委員会から受託し、実施する。
	9月	●かわさき市民アカデミー設置規則を制定し、初代学長に高橋清(川崎市市長)、学長代行に篠原一(東京大学名誉教授)を選出する。
	10月	●川崎市生涯学習情報システム「Stage Line かわさき」のタッチ式端末「COMS」を市役所第3庁舎に導入する。 ●「かわさき市民アカデミー」(研究系、表現系、川崎学の講座と演習による市民の継続的、専門的な新しい学習機会)を開校する。
1994年 (平成6年)	4月	●「学校施設開放事業」を市教育委員会から受託する。 ●学習事業室を中小企業・婦人会館内(小杉分室)ならびに河原町小学校内(河原町分室)に開設し、かわさき市民アカデミー事業を拡充する。 ●かわさき市民アカデミーに生活系の講座を開設する。
	5月	○かわさき市民アカデミー受講生の自治組織「友の会」が結成される。 ●岩手県東和町グリーンビレッジを借り上げ、農業体験の場として提供を開始する。
1995年 (平成7年)	3月	○道志村キャンプ地調査委員会が「道志村キャンプ地調査委員会報告書」を提出する。
	4月	●中小企業・婦人会館内に市民アカデミー専用教室を開設する。 ●川崎市とどろきアリーナ(8月開館)の管理運営を市から受託する。同アリーナにスポーツ事業室の事務室を設置し、専任室長を配置する。 ●学習事業室から学習情報室を独立設置する。青少年活動事業室を河原町分室に移し、市教委指導主事の派遣を受ける。 ●「寄附行為」(定款)を改正し、専務理事の職を設置する。
	5月	●陶芸教室を青少年創作センターで開始する。
	8月	●長野県富士見町を加え、青少年地域間交流事業「ふれあいサマーキャンプ」を全4コースで実施する。
	9月	●かわさき市民アカデミー第1回学園祭、第1回修了式を開催する。
	11月	●事業団設立5周年記念式典を新百合21ビルにて開催する。
1996年 (平成8年)	2月	●「Stage Up」読者のつどいを新百合21ホールで開催する。
	3月	○かわさき市民アカデミー修了生を中心として、「川崎市民フロンティアの会」が結成される。
1997年 (平成9年)	4月	●高津スポーツセンター(7月開館)の管理運営を市から受託する。
	9月	●文化イベント事業を(財)川崎市文化財団に移管する。
	10月	●高津市民館に生涯学習情報コーナーを設置する。
	10月	●かわさき市民アカデミー夜間部講座を開設する。
1998年 (平成10年)	8月	●新たに北海道岩見沢市を加え「ふれあいサマーキャンプ」を全5コースで実施する。
	9月	●かわさき市民アカデミー5周年記念式典ならびに記念講演会を開催する。
	10月	●川崎市が神奈川県労働福祉会館の移譲を受け「川崎市生涯学習プラ

	1 1 月 1 2 月	ザ」として、川崎市生涯学習振興事業団が借り受ける。 ●川崎市生涯学習プラザ開設記念式典を開催する。 ●生涯学習の拠点として川崎市生涯学習プラザの施設提供を開始する。 ●スポーツ事業室を生涯学習プラザに移す。
1 9 9 9 年 (平成 11 年)	2 月 1 0 月 1 1 月	●生涯学習情報誌「井戸端会議」を第19号で終了する。 ●生涯学習プラザ地下1階食堂、調理室跡を陶芸教室用実習室とする改修工事を実施(平成12年1月まで)。陶芸窯2台、電動ろくろ、作業台等を設置する。 ●緊急雇用対策2事業を市(健康福祉局と教育委員会)から受託する。教育文化会館内学習事業室を川崎分室として、生涯現役支援センターを併設する。 ○市内公共施設で「ふれあいネット」(川崎市公共施設利用予約システム)端末が稼働し、既存の川崎市生涯学習情報システム「Stage Line かわさき」を併合する。
2 0 0 0 年 (平成 12 年)	1 月 8 月 1 2 月	●生涯学習情報誌「Stage Up」編集室を新百合21ビルから生涯学習プラザに移す。 ●学習事業室に、かわさき市民アカデミー双書の発行に向けて、出版部を設置する。 ●生涯学習プラザの陶芸室が完成し、プラザ陶芸教室「てびねり」「ろくろ」講座を開始する。 ●生涯学習プラザ耐震補強工事を実施(平成13年1月まで)。工事期間中の仮事務所は、総務室を中原小学校、学習事業室を中小企業・婦人会館、青少年活動事業室を川崎市教育文化会館、スポーツ事業室と「Stage Up」編集室をとどろきアリーナに、それぞれ分散する。 ●かわさき市民アカデミー講座ブックレットを発行する。
2 0 0 1 年 (平成 13 年)	1 月 2 月 3 月 4 月 6 月 1 0 月 1 1 月	●かわさき市民アカデミー双書を発行する。 ●生涯学習プラザ耐震補強工事が終了し、分散していた各事業室を戻す。 ●学習事業室川崎分室(教育文化会館内)を生涯学習プラザの学習事業室に戻す。 ●生涯学習振興事業団のホームページを開設する。 ●生涯学習プラザ3階料理室をパソコン教室用研修室に改修する。 ●東芝から、川崎市のIT講習会の一部を受託する。 ●川崎市民アカデミー学長(第2代)に篠原一が就任する。 ●(財)川崎市生涯学習振興事業団設立10周年記念式典を開催する。記念事業として生涯学習プラザ駐車場にてフリーマーケットを実施する。
2 0 0 2 年 (平成 14 年)	4 月 5 月	●生涯学習振興事業団理事長(第2代)に河野和子が就任する。 ●資格取得支援講座を生涯学習プラザにおいて開設する。 ●パソコンセミナーを生涯学習プラザにおいて開設する。
2 0 0 3 年 (平成 15 年)	4 月 8 月 1 1 月	●青少年活動事業室とスポーツ事業室を統合し学習推進室を設置する。学習事業室をアカデミー室と改称する。 ●川崎市子ども夢パーク(7月開館)の管理運営を市から受託する。 ●新たに和歌山県古座川町他を加え「ふれあいサマーキャンプ」を全6コースで実施する。 ●かわさき市民アカデミー10周年記念事業を実施する。
2 0 0 4 年 (平成 16 年)	4 月 5 月 8 月	●かわさき市民アカデミー学長(第3代)に牧柁名が就任する。 ●かわさき市民アカデミー改革協議会を設置(平成17年3月まで)する。 ●「かわさき市民アカデミー改革」中間報告を改革協議会が取りまとめる。

	1 2 月	●ふれあいサマーキャンプのホームページを開設する。 ○「ふれあいネット」内の生涯学習情報がインターネット経由で利用可能となる。
2 0 0 5 年 (平成 17 年)	2 月 3 月 4 月	○(財)川崎市生涯学習振興事業団と(財)川崎市博物館振興財団の統合にあたり、神奈川県教育委員会から寄附行為等(定款)の変更について認可を受ける。 ●「かわさき市民アカデミー改革」報告書を改革協議会が取りまとめる。 ○市教育委員会が「かわさき教育プラン」(のちに川崎市教育振興基本計画として位置づけ)を策定する。 ●ふれあいサマーキャンプ開始15周年を記念し、岩手県東和町に感謝状を贈呈する。 ●2財団統合により、新財団「(財)川崎市生涯学習財団」が発足する。 ●学習推進室とアカデミー室を統合し、事業推進室を設置する。 ○青少年の家、八ヶ岳少年自然の家、青少年創作センター、子ども夢パーク、市体育館、幸スポーツセンター、とどろきアリーナ、高津スポーツセンター、麻生スポーツセンター、黒川野外活動センターが市の直営や他団体による管理運営となる。 ●市民ミュージアム、日本民家園、青少年科学館、岡本太郎美術館の管理運営を市から受託する。 ●市から受託した市民ミュージアムと岡本太郎美術館のミュージアムショップ運営事業を開始する。
2 0 0 6 年 (平成 18 年)	4 月 8 月 1 0 月	○市民ミュージアム、日本民家園、青少年科学館、岡本太郎美術館が市の直営となる。 ●市民ミュージアムの学芸業務受託に伴い、財団組織を改編し市民ミュージアム内に財団学芸室を設置する。 ●指定管理者制度が導入され、指定管理者として青少年の家、子ども夢パーク、宮前スポーツセンター、麻生スポーツセンター、大山街道ふるさと館の運営を開始する。 ●「キッズセミナー」(夏休み子ども学習講座)を開設する。 ●財団のホームページを完全リニューアルする。
2 0 0 7 年 (平成 19 年)	4 月 7 月 8 月 1 0 月	●新百合21ビル内の財団管理施設を(財)川崎市文化財団に移管する。 ○NPO法人かわさき市民アカデミーが設立される。初代理事長に東昭が就任する。 ●財団アカデミー事業の一部をNPO法人かわさき市民アカデミーに委託する。 ●生涯学習財団・生涯学習プラザの情報紙「Kパル通信」を創刊する。 ●新たに島根県益田市を加え「ふれあいサマーキャンプ」を全6コースで実施する。 ●青少年創作教室を生田中学校特別創作活動センターで開始する。 ●シニア活動支援事業「小学校のPC活用授業のアシスタント養成講座」を開始する。
2 0 0 8 年 (平成 20 年)	1 月 2 月 4 月	●かわさき市民アカデミーの設置規則等の改正が理事会において承認される。 ●第1回シニア活動シンポジウムを開催する。 ●(財)川崎市生涯学習財団のロゴマークの発表及び表彰式を行う。 ●学習情報室を総務室企画広報担当に、教育人材センターを事業推進室事業推進担当にそれぞれ統合する。 ●教育文化会館、高津市民館の情報コーナーを各館に移管する。 ○青少年の家、子ども夢パークの事務所管理局が教育委員会から市民・こ

	8 月	ども局に移管される。 ○かわさき市民アカデミー学長(第4代)に和田あき子が就任する。 ●川崎市職員研修所移転に向けた改修工事を開始する(202、203、204会議室)。併せて101活動室の改修工事を行う。(8・9月は全館の貸館利用を休止) ●新たに沖縄県那覇市を加え「ふれあいサマーキャンプ」を全7コースで実施する。
	1 1 月	●生涯学習アドバイザー認定委員会を設置する。 ●シニア活動支援事業「環境学習アドバイザー養成講座」を開設する。
	1 2 月	○「公益法人制度改革関連3法」が施行される。
2 0 0 9 年 (平成 21 年)	4 月	●生涯学習財団理事長(第3代)に小宮山健治が就任する。 ○川崎市職員研修所が生涯学習プラザ2階に移転する。 ●川崎市有馬・野川生涯学習支援施設(5月開館)の指定管理者(NPO法人カンアオイとの共同運営事業体)となる。 ●川崎市大山街道ふるさと館の第2期指定管理者(NPO法人教育活動総合サポートセンターとの共同運営事業体)となる。
	7 月	●公益法人移行検討準備委員会を設置する。
	8 月	●夏休み子ども陶芸教室を開始する。
2 0 1 0 年 (平成 22 年)	3 月	●理事会及び評議員会で、「公益法人移行について」が決議される。 ○川崎市職員研修所が生涯学習プラザから第4庁舎(旧いさご会館)へ移る。
	4 月	○市が派遣職員6名を引き上げる。 ●派遣職員引き上げに伴い、常勤嘱託職員6名を配置する。 ●NPO法人かわさき市民アカデミーと協働で運営するステップアップ講座を開始する。
	5 月	○NPO法人かわさき市民アカデミーの理事長(第2代)に藤嶋昭が就任する。
	6 月	●第1回公益法人移行検討委員会を開催する。
	7 月	●創立20周年記念誌編集委員会を発足する。
	8 月	●青少年地域間交流事業により和歌山県古座川町の児童受け入れを開始し、小学6年生22名が来川する。
	1 1 月	○NPO法人かわさき市民アカデミー藤嶋昭理事長が川崎市文化賞を受賞する。
2 0 1 1 年 (平成 23 年)	3 月	●宮前スポーツセンター・麻生スポーツセンターの指定管理業務を終了する。 ●市民ミュージアムと岡本太郎美術館のミュージアムショップの運営受託事業を終了する。
	4 月	●財団ホームページの大幅リニューアル(2回目)を実施し、トップページの名称を「かわさきの生涯学習情報」と変更する。 ●川崎市青少年の家の第2期指定管理者(NPO 法人教育活動総合サポートセンターとの共同運営事業体)となる。 ●川崎市子ども夢パークの第2期指定管理者(NPO 法人フリースペースたまりばとの共同運営事業体)となる。 ●かわさき市民アカデミーのすべての講座とワークショップの運営を NPO 法人かわさき市民アカデミーに移行する。 ●ステップアップ講座を改編し、シニア活動支援事業「地域協働講座」を NPO 法人かわさき市民アカデミーとの協働事業として開始する。 ●(財)川崎市生涯学習財団創立20周年記念誌を発行する。
	5 月	●「Kパル通信」を「かわさきの生涯学習情報(KSJ)」に名称を変更し、市内の生涯学習情報を提供する。

	7月	●理事会及び評議員会で「公益財団法人移行申請内容」が決議される。
	8月	●児童健全育成事業(川崎市放課後子ども総合プラン職員資質向上研修)を市から受託する。
	12月	●神奈川県に公益財団法人への移行認定申請書類を提出し事前審査を受ける。
	12月	●神奈川県に公益財団法人への移行認定申請を行う。
2012年 (平成24年)	2月	○神奈川県公益認定等審議会の答申が出る。
	3月	○神奈川県知事から公益財団法人の認定書が交付される。
	4月	●有馬・野川生涯学習支援施設(アリーノ)の指定管理業務を終了する。
	4月	●公益財団法人への移行の登記申請を行う。(平成24年4月1日登記)
	4月	●生涯学習プラザ施設利用の電子メールによる予約申し込みを開始する。
	4月	●公益財団法人としての第1回理事会及び評議員会を開催する。
	5月	●「☆キラリ文化教室」を開始する。
	6月	●保育ボランティア養成講座を開始する。
	6月	●「ランチタイムロビーコンサート」を開始する。
	6月	●生涯学習財団の理事長(第4代)に金井則夫が就任する。
	11月	○かわさき市民アカデミー和田あき子学長が川崎市文化賞を受賞する。
2013年 (平成25年)	1月	●特別支援教育ボランティア養成および派遣事業を開始する。
	4月	○かわさき市民アカデミー学長(第5代)に太田猛彦が就任する。
	6月	●「なかはらママカフェ in 生涯学習プラザ」(中原区役所こども支援室との共催)を開始する。
	8月	●サマーキャンプ「和歌山県古座川町コース」開始10年の記念イベントを開催する。
	11月	●財団メールマガジンの読者登録と配信を開始する。
	12月	●川崎市子ども夢パークが開所10周年記念フェスタを開催する。
	12月	○かわさき市民アカデミー開学20周年記念フェスタ、記念パーティーが開催される。
2014年 (平成26年)	4月	●川崎市大山街道ふるさと館の第3期指定管理者(NPO 法人教育活動総合サポートセンターと共同運営事業体)となる。
	8月	●財団ホームページの大幅リニューアル(3回目)を実施する。
	10月	○下村博文文部科学大臣が、教育再生実行会議の提言(フリースクールの制度化)を受けて、川崎市子ども夢パークを視察訪問する。
	10月	●生涯学習プラザの各フロアに災害時の特設公衆電話回線を設置する。
	12月	●市の「寺子屋先生養成講座」の実施に協力する。
2015年 (平成27年)	3月	○市教育委員会が「第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン 第1期実施計画」を策定する。
	4月	●「かわさきの生涯学習情報」内「講座・イベント情報」簡易検索システムが稼働する。
	6月	●市から受託した「寺子屋先生養成講座」を開始する。
	6月	●かわさき市民放送「かわさきFM」での情報提供を開始する。
	6月	●中原区寺子屋ネットワークに参画する。
	9月	●住居表示変更により、今井南町28番41号となる。
	10月	○「寺子屋すみよし」が開設される。
	12月	●公用車を入れ替える。
	12月	○NPO法人かわさき市民アカデミーが認定NPO法人の認定を受ける。
	12月	○NPO法人教育活動総合サポートセンターが認定NPO法人の認定を受ける。

2016年 (平成28年)	1月 3月 4月 8月 11月	●「ごえん楽市」(かわさき市民活動センター主催)に参加する。 ●生涯学習プラザホームページの施設予約ページをリニューアルし、運用を始める。 ●川崎市青少年の家の指定管理業務を終了する。 ●「かわさきの生涯学習情報」内「講座・イベント情報」検索システムをリニューアルする。 ●川崎市子ども夢パークの第3期指定管理者(NPO 法人フリースペースたまりばと共同運営事業体)となる。 ○川崎市子ども夢パークの事務所管理局が市民こども局からこども未来局に移管される。 ●生涯学習プラザの冷房システムが故障する。 ●生涯学習プラザの暖房システムが故障、空調システム改修に向けた対応が始まる。
2017年 (平成29年)	2月 3月 4月 5月 6月 7月 10月 11月	●生涯学習プラザのホームページの施設予約ページを再リニューアルする。 ●情報紙「かわさきの生涯学習情報(KSJ)」の発行を休止する。 ●市民ミュージアムの指定管理者制度導入に伴い、市民ミュージアム学芸業務の受託を終了し、学芸室を廃止する。 ●「生涯学習情報収集・提供事業」業務を市から受託し、「ふれあいネット」の情報を財団の生涯学習情報提供システムに移行する。 ●生涯学習プラザ303研修室を会議室に変更する。 ●生涯学習プラザ空調システムの故障対応として、レンタル空調機による各部屋個別空調の運用を始める。 ●生涯学習財団理事長(第5代)山田雅太が就任する。 ●「ふれあいサマーキャンプ」が旅行業法に抵触する恐れがあると懸念されたため、今年度の開催中止を判断する。 ●川崎市子ども夢パークの来場者数が累計100万人を超える。 ○「かわさき Wi-Fi」の生涯学習プラザ内での運用が始まる。 ○認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー藤嶋昭理事長が文化勲章を受章する。 ●生涯学習プラザのエレベーターが故障し、復旧に向けた対応が始まる。
2018年 (平成30年)	1月 6月 7月 11月 12月	●生涯学習プラザの空調システム改修工事が行われる。(4月まで) ●生涯学習プラザのエレベーター復旧工事が完了し、使用を再開する。 ●新たに宮城県涌谷町を加え「ふれあいサマーキャンプ」を全6コースで実施する。 ●川崎市子ども夢パーク15周年を祝う「夢パまつり2018」を開催する。 ○認定 NPO 法人かわさき市民アカデミー藤嶋昭理事長が川崎市名誉市民章を受章する。 ●生涯学習プラザの屋上防水工事が行われる。(平成31年1月まで)

2019年 (平成31年) (令和元年)	4月 5月 6月 8月 11月	●シニア活動支援事業として、地域協働講座修了者等による自主グループの支援事業を開始する。 ●川崎市大山街道ふるさと館の第4期指定管理者(認定 NPO 法人教育活動総合サポートセンターと共同運営事業体)となる。 ○譲位により皇位が継承され、元号が平成から令和に改められる。 ●生涯学習財団理事長(第6代)に渡邊直美が就任する。 ●「社会人学級業務」を市教育委員会から受託する。 ●生涯学習プラザのトイレ改修工事が行われる。(10月まで) ○かわさき市民アカデミー太田猛彦学長ならびに当財団藤嶋とみ子理事が川崎市文化賞、川崎市子ども夢パーク西野博之所長が川崎市社会功労賞を受賞する。 ●使途特定寄附金を原資として、特定資産「青少年地域間交流事業参加積立資産」を設定する。
2020年 (令和2年)	3月 4月 5月 6月 9月 10月	●新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、スポーツ教室、文化教室、陶芸教室、その他講座の中止・延期を余儀なくされ、事業運営に多大な影響を受ける。 ○かわさき市民アカデミーは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みて、年度当初の開講式、前期講座の中止を決定する。 ●「学校支援センター業務」を市教育委員会から受託する。(令和4年3月まで) ○新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、4月7日に政府が、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、大阪府、兵庫県、福岡県を対象に緊急事態宣言を発出する。(対象は、後に全国に拡大) ●緊急事態宣言を受け、生涯学習プラザ及び大山街道ふるさと館を4月11日から臨時休館とする。なお、子ども夢パークは、「子どもの居場所」を確保する観点から、時間を短縮して開所する。 ●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ふれあいサマーキャンプ、財団主催の各講座、ロビーコンサート等について、中止・延期を決定する。 ●「楽天シニア」お出かけ健康アプリのチェックイン端末を設置する。(令和4年8月まで) ●緊急事態宣言の解除(5月25日)を受け、感染症防止対策をとった上で、6月1日から生涯学習プラザの施設提供を再開する。 ●創立30周年記念誌編集委員会を発足する。 ●公衆無線 LAN(株式会社USEN の「U-SPOT」)を各会議室に整備し運用を開始する。 ○かわさき市民アカデミーが、オンライン講義も併用し、後期講座を再開する。 ●生涯学習プラザ施設設備の利用料金を改定する。 ●市健康福祉局による「シニア向け無料開放」事業へ施設提供(101活動室、202会議室)を開始する。
2021年 (令和3年)	1月 4月	○新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1月7日に政府が、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県を対象に緊急事態宣言を再発出する。(対象は、後に1都10県に拡大) ●緊急事態宣言再発出を受け、生涯学習プラザの開館時間を短縮し20時閉館とする。(1月12日から3月21日まで) ●川崎市子ども夢パークの第4期指定管理者(NPO 法人フリースペースた

		まりばと共同運営事業体)となる。 ●(公財)川崎市生涯学習財団「創立30周年記念誌」を発行する。 ●生涯学習プラザ402フィットネスルームの壁面改修工事が行われる。 ●本市区域がまんえん防止等重点措置の実施区域とされたことに伴い、生涯学習プラザの利用時間を20時までとする。(4月20日から、7月30日に再々発出された緊急事態宣言が解除される9月30日まで) 5月 ●「なかはらママカフェ in 生涯学習プラザ」(中原区役所こども支援室との共催)が「ミミケロ子育ておしゃべり広場」に名称を変更する。 6月 ●新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、地域間交流が困難となり、本年度のふれあいサマーキャンプの中止を決定する 7月 ○川崎市・横浜市・慶応義塾大学で、東京2020オリンピック・パラリンピック英国代表チームの事前キャンプが実施される。 ●「かわさき SDGs ゴールドパートナー」としての認証を受ける。 11月 ●さとう菊夫氏から作品(絵画・図書・絵葉書)の寄贈を受ける。
2022年 (令和4年)	1月 ●生涯学習プラザ1階ロビーに「ウェルカム・ギャラリー」を開設する。 3月 ●メールマガジン「かわさきの生涯学習情報 KSJ Mail News」の配信が100回目を迎える。 4月 ●子どもの泳力向上プロジェクト事業を市教育委員会から受託する。 6月 ●生涯学習財団理事長(第7代)に石井宏之が就任する。 ○NPO 法人かわさき市民アカデミーの理事長(第3代)に太田猛彦が就任し、藤嶋昭が顧問理事となる。 ○かわさき市民アカデミー学長(第6代)に馬場康雄が就任する。 7月 ●ふれあいサマーキャンプを3年ぶりに再開する。 ●川崎市子ども夢パーク「夢パまつり」を3年ぶりに開催する。 8月 ●(公財)川崎市文化財団が主催する「パラアート常設展示」に協力し、生涯学習プラザ4階ロビーでパラアート作品展示を開始する。 ●生涯学習プラザ地下1階実習室の空調整備工事が始まる。(令和5年1月まで) 9月 ●川崎市大山街道ふるさと館開館30周年記念事業として、3年ぶりにふるさと館まつりを開催する。 10月 ●川崎市子ども夢パークの全天候広場“たいよう”のトイレを改修し、温水シャワーを設置する。 11月 ●生涯学習財団正面玄関前タイル改修工事が行われる。	
2023年 (令和5年)	2月 ●生涯学習プラザ階段踊り場等に掲示板を設置する。 ●川崎市シェアサイクル事業に協力しサイクルポートを設置する。 3月 ●生涯学習プラザ302多目的ルームの壁面改修工事が行われる。 ●高津区制50周年の冠事業として春のふるさと館まつりを実施する。 4月 ●生涯学習プラザ402フィットネスルームのカーテンを全面改修する。 ●市健康福祉局による「いこい元気広場」事業へ施設提供(202会議室)を開始する。 ●川崎市大山街道ふるさと館条例の一部改正に伴い施設利用料金を改定する。 5月 ●生涯学習プラザ利用者・職員向け行事予定掲示板を電子化する(デジタルサイネージの導入)。 ○新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になる。	